

平成21年2月

金井亨輔 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 林 眞 一
同 西 連 寺 剛

主論文

Difference of Epstein-Barr virus isolates from Japanese patients and African Burkitt's lymphoma cell lines based on the sequence of latent membrane protein 1

(EBウイルスのlatent membrane protein 1遺伝子配列からみた日本人患者及びアフリカ人のバーキットリンパ腫細胞株から単離されたEBウイルスの相違)

(著者：金井亨輔、佐藤幸夫、齋木由利子、大谷明夫、西連寺剛)

平成19年 Virus Genes 34巻 55頁～61頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は日本人のEBウイルス (EBV) 関連胃癌組織、末梢血単核球及び日本、アメリカおよびアフリカ由来の各種EBV感染細胞株に感染しているEBVゲノムのLMP1遺伝子C末端領域の塩基配列を決定し、近隣結合法を用いてLMP1系統樹を作成し、EBVの分布地域における変異の状態を比較検討したものである。その結果、日本人由来のEBVのほとんどに特異的な変異を見出し、系統樹解析から日本人由来のEBVはアメリカ由来B95-8株やアフリカBL株のEBVとは大きく異なっていることを明らかにした。本論文の内容は、EBVの系統を人種及び分布地域という面から解析し、EBVが人種依存的に変異し進化してきた可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。